

# 週刊 座、グレート・リーダーズ通信

## 『インド私録-思い切り取り組んだこの50年-』No.4

### 今週のキーワード！ 鉄鉱石

#### インドと日本の隠れた絆

デリーにある日本大使館に茶室と日本庭園があることを知っている方はあまりいないかもしれません。今ではあまり語られることのないこの茶室と日本庭園は、第4回の放送で紹介しましたように、鉄鉱石が取り持つ縁で造られました。

戦後、日本は1950年に勃発した朝鮮戦争中の朝鮮特需によって神武景気とよばれる好景気を迎えました。しかし、当時日本の鉄鋼業界は、鉄鉱石の調達のめどが立たず、せつかくの好景気に日本の手を拱いている状況でした。

この事態を打開するため、1958年、日本から日本鉄鋼連盟の会長をはじめとする鉄鋼業界の首脳などによる大型ミッションがインドを訪れました。インド政府とインド産鉄鉱石を日本に輸入するための交渉が最終段階に入っていたからでした。

その結果、当時のネルー首相が政治的判断を下し、日本への鉄鉱石輸出が決まりました。

しかも、インド東部のマディヤ・プラデシュ州(現チャッティスガル州)にある鉱山が日本専

用となり、専用の鉄道も敷設されました。以来、インドはここから産する鉄鉱石を日本にだけ輸出し続けています。

ミッションはこの決定を受けて、日本大使館に茶室と日本庭園を寄贈したのです。『インド私録』によれば、「一行の中から誰言うことなく」その提案が持ち上がり、即座に決定となったとのこと。当時の鉄鋼業界人の喜びがいかに大きかったかということでしょう。

今日、日本の鉄鉱石輸入量に占めるインドの割合はわずか5%(同)と少なく、品質的にもインド産鉄鉱石は存在感を薄めています。武藤氏が本の中で「日本は戦後に鉄鉱石の輸入を通してインドから受けた恩恵を忘れてはならない」と語るように、この鉄鉱石外交にもう一度光を当て、将来に語り告げたいものです。

ところで、武藤氏が大阪外大の学生だった頃、大阪心斎橋で出会ったインド人船員に連れられて、山盛りのマトン・カレーにありついたのは、大阪港に停泊していたインド船でした。このインド船の積荷が鉄鉱石。

武藤氏もインド産鉄鉱石とは浅からぬ縁があるようです。

### 日本人外交官VSインド人役人

#### どちらも顔が立った

前掲の茶室と日本庭園は、造るにいたった経緯が感動的なら、造園後のエピソードも意表を突く粋なものでした。したたかな役人らしくデリー市内から調達した庭園用の石材代金をビター一文も負けようとしなかった市役所の造園局長。落成式に出席するネルー首相と日印外交を引き合いに出して無償を「要請」した武藤氏。本では要請となっていますが、実際はかなりすごんだとのこと。市役所の一造園局長としてどんなに悩んだことでしょう。その結果が本にもあるように「請求金額 Rs.1(1ルピー)」。相手の意を汲みつつ、役人の矜持も守り通す。武藤氏の粘りにも感服しますが、杓子定規で終わらないインドの役人、その名もマジウムダール氏。武藤氏の忘れえぬ名前となりました。『インド私録』の中でも印象的な登場人物です。

### ラジオ・ニュームンバイからのお知らせ

『インド私録』の在庫はまだあります。ご意見・ご感想とともにご希望の方は

[rnm@radio-new-mumbai.com](mailto:rnm@radio-new-mumbai.com)

までご連絡ください。

次回放送は7月6日  
です。また来週～。

